



代表取締役
李京秀

special X interview

元 WBA 世界 Jr. フライ級チャンピオン
渡嘉敷 勝男

業界初・暗号通貨利用の QR コード決済で 世界中の人々の生活の利便性を高める



世界有数の金融都市・香港を拠点とする『CSPay Limited』が提供している決済プラットフォーム「CSPay」。ブロックチェーン技術を採用した、世界初の暗号通貨 QR コード決済サービスとして世界中で注目を集めている。同サービスを日本で普及させるべくスタートしたのが『CSpay Japan』だ。本日は渡嘉敷勝男氏が同社を訪問。李社長にインタビューを行い、「CSPay」の持つ様々な可能性などを伺った。

—李社長は、近年注目を集めている暗号通貨関連の事業を手掛けておられるとか。まずは今のお仕事を始められるまでの歩みからお聞かせ下さい。

中国遼寧省出身です。現地の大学を卒業後、来日して沖縄の『琉球大学』に進学しました。学業修了後は沖縄の貿易も手掛ける不動産会社に就職したのですが、1年ほどで会社が休業したため、上海の韓国企業に転職を決めました。しかし、そちらに移る前に妻と出会い、沖縄で家庭を持つことになったので、上海行きを取り止めることに。妻の勧めもあって飲食事業を始めました。

—今とは全く違う分野ですね。始められてみていかがでしたか。

中華料理店など3店舗を経営し、順調でした。そして少し余裕ができたので、飲食事業の傍ら貿易会社の通訳として勤めるようになったんです。そちらでは Facebook を通じて日本各地で事業運営に苦戦している経営者を募り、月に1度香港や上海の卸売市場や金融市場の視察ツアーを開催する経営コンサルティングのような仕事に携わりました。毎回約30～60名の参加者があり、中には参

加者が自社で扱う商品を探すきっかけになって、その後、参加者の事業が急成長することもあるなど、とてもやりがいがありました。

—飲食事業を軌道に乗せられたり、コンサルで力を発揮されたり、社長の経営手腕の高さが窺えますね。

ありがとうございます。その後、私も貿易会社を立ち上げ、日本と香港を頻繁に行き来していたんです。その時に香港にある大手資産運用会社の経営者のご縁を得て「一緒に金融業界で資産運用の会社をつくりませんか」とお声掛けいただいたんです。それで10年ほど前から香港で一緒に事業を手掛けてきました。

—その経営者は、どのようなお方なのですか。

香港で上場した資産運用会社を複数経営しておられて、毎年香港の社会功労賞も受賞される敏腕経営者です。今、私共が扱っている「CSPay」という決済システムについても、彼と一緒に香港で手掛けてきたんですよ。香港ではすでに始動して多くのユーザーを獲得してきましたが、アジア市場をさらに拡大するために2018年10月に日本法人として『CSpay Japan』を設立。私がこちらの代表を務めさせていただいています。

—「CSPay」とはどのようなサービスなのでしょう。

香港に拠点を置く『CSPay Limited』が提供する決済プラットフォームで、ブロックチェーン技術を用いた暗号通貨 QR コード決済サービスなんです。QR コード決済では世界で初めて暗号通貨で支払いができる技術として、海外の

様々なメディアでも取り上げていただいています。

—そのサービスを使うとどういったメリットがあるのですか。

暗号通貨を利用して現地通貨（法定通貨）で支払いができるので、たとえば、海外に旅行した際に現地通貨に両替する手間が省けますし、両替手数料も掛かりません。もちろん世界中の加盟店で使用できますし、日本を訪れる世界の暗号通貨保有者を対象に、インバウンド対策ツールとしても利用できます。

—日本はこれから東京オリンピックや大阪万博などを控えていますから、さらに需要が高まりそうですね。どうすれば、このサービスを利用できますか。

まずはスマートフォンに「CS Wallet」というアプリをダウンロードしていただきます。そしてウォレットを登録し、暗号通貨を入金して下さい。後はお買い物の会計時に、スマホの画面に表示される QR コードを加盟店側に読み取ってもらうだけです。ユーザー手数料は無料で支払うのは買い物した金額のみです。

—簡単で便利ですね！ 国内ではどちらで使えるのでしょうか。

代表的なところでは東京と大阪の『帝国ホテル』内のテナントなどにご加盟いただいています。「CSPay」を運用していただく加盟店にもメリットが多く、たとえば決済端末の運用コストはかからず、決済手数料は業界最低水準の1.5%と、クレジットカードや電子マネーによる決済より大幅にお安いです。加えて、売上金を翌々営業日には入金させていただき、振込手数料も掛かりません。

—今後さらにユーザーも加盟店も増えていきそうです。

私もそう確信しています。今、「CSPay」は香港、中国、マカオ、韓国、台湾、日本のアジア6地域をカバーしていて、15万人の登録ユーザーがいます。中国などではすでにキャッシュレス文化が浸透していますが、最近では現金社会だった日本でも、徐々にキャッシュレスに切り替わってきていますし、今後3年ほどで世界中が大きく変わるでしょう。そしてありがたいことに、当社は欧州の上場企業からも引き合いが来ていますが、私共の考えとしてはまず東アジアへの「CSPay」の普及によって経営をより安定させたい。その中核を担うのは新たな事業ドメイン「CSpay Travel」だと考えています。まだ詳細を明かすことはできませんが、間もなくサービス提供を開始する予定で、この「CSpay Travel」を軸に、東南アジア、それから欧州に進出していくつもりです。3年後を目処に上場するという目標も目指しつつ、より便利な社会を目指して尽力していきます。

—さらなるご活躍を、私も陰ながら応援しています！

(2019年10月取材)



急速に普及が進む日本

▼2019年3月、仮想通貨交換会社『ディーカレット』が暗号通貨を『JR東日本』の電子マネー「Suica」などのチャージに使えるサービスを検討しているというニュースが流れ、日本中の人々を驚かせたことは記憶に新しい。日本の大手企業も暗号通貨の利便性に気づき、活用に取り出しているが、海外ではすでに様々な方法で活用が進んでいる。

▼たとえば、政情不安や経済危機のリスクがある開発途上国では、自国通貨が利用できなくなった場合の非常手段として、暗号通貨を活用することがある。実際にギリシャで債務不履行の問題が起きた際には、多額の資金が暗号通貨に流入した。また、法定通貨に比べて送金コストが低い暗号通貨は、出稼ぎ労働者が母国に国際送金する際にも活用されている。

▼諸外国に比べると普及が遅れている日本。しかし今後は支払いや決済手段として暗号通貨を利用できる場所が増えることで普及率はさらに高まるだろう。そんな未来を見据え、日本で暗号通貨事業を進める「CSpay Japan」。その名を、日本で広く知られる日も遠くない。



「李社長がお仕事をする上で大切にしているのは、『心』だそうです。『事業は常に順調な時ばかりではない。初心を忘れずに進むことで、苦勞を乗り越え成長していきたい』と話して下さいました。暗号通貨という先進的なお仕事においても、その先にあるのは『人』。だからこそ『心』を大切にされる社長なら、さらなる成功を掴まれることと思います」
渡嘉敷 勝男・談

CSpay Japan 株式会社

東京都中央区京橋 2-12-9 寺沢ビル 5F
URL : <https://www.cspay.co.jp>

